

## 潮間帯泥底における高潮堆積物の堆積学的・古生物学的研究—三浦半島江奈湾でのケーススタディー

### Sedimentological and paleontological studies of storm surge deposits in intertidal mud floor -case study of Ena Bay on Miura Peninsula, Central Japan.

\*北村 晃寿<sup>1</sup>、山本 有夏<sup>1</sup>、豊福 高志<sup>2</sup>

\*Akihisa Kitamura<sup>1</sup>, Yamamoto Yuka<sup>1</sup>, Takashi Toyofuku<sup>2</sup>

1. 静岡大学理学部地球科学教室、2. 海洋研究開発機構

1. Institute of Geosciences, Faculty of Science, Shizuoka University, 2. Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology (JAMSTEC)

高潮および津波堆積物の認定は、中・低緯度の活動縁地域の沿岸低地の災害アセスメントに必要な情報をもたらす。住宅地周辺の沿岸低地の地層における高潮・津波堆積物の調査は、人為改変の拡大のためにますます困難になっている。従って、近年の研究は内湾を含む浅海の堆積物にも及ぶが、内湾堆積物における近年の嵐イベントと高潮堆積物の直接的関係の研究はほとんどない。本研究は、2017年10月23日の大型台風Lan(最低気圧915 hPa)の前後の調査(堆積相・有孔虫群集解析)の比較に基づいて、首都圏南部の江奈湾の干潟堆積物から高潮堆積物を識別した。その分布は潮上帯と潮間帯に限られ、砂質高潮堆積物の海側末端は、高い津波によって典型的に堆積した砂質津波堆積物よりもはるかに狭いことを意味する。

キーワード：高潮堆積物, 底生有孔虫, 現世, 干潟堆積物、現世干潟堆積物、底生有孔虫

Keywords: storm surges deposits, recent muddy tidal flat sediments, benthic foraminifer